HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2016 : 年次記録 : 持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する高等教育のあり方
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65308
Type	report
File Information	chapter-1.pdf,

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

1. サステナビリティ・ウィーク 2016 の概要

本年の特徴

・開催テーマ　：　**持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する高等教育のあり方**

・企画実施期間：　2016 年 10 月 12 日～12 月 18 日
- コア期間：2016 年 10 月 22 日（土）～11 月 6 日（日）

・企画数　　：　34 企画

・特筆事項　　：

- 2015 年 9 月に国連にて採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」に焦点を当て、高等教育の役割を考えることをテーマに定めた。

- サステナビリティ・ウィーク（SW）開始から 10 年目にあたり、10 周年記念 国際シンポジウムを 10 月 29 日・30 日に開催した。北海道大学内の 5 つの組織と学外の 9 団体と協働で全体会ならびに分科会を開催したところ国内外から 214 人が参加した。

- SW の 10 年間の累計は、開催企画数が 339、参加者数が 17 万 7 千人に達した。

- 全日本学生英語弁論大会「ポテト杯」や国際社会問題ビジネスコンペ「ハルト・プライズ」など、学生が社会変革に寄与しようとする意欲的な企画が学生によって運営された。

- インターネット・フォーラム「GiFT」は、北海道大学と世界の学生による議論をよりいっそう促進するため、運営における学生の主体的な関与を増やした。その結果、北海道大学留学生協議会「HUISA」の協力により、2 時間の生配信に国内外から 228 人が参加し、これまで以上に積極的な意見交換が実現した。

- 総長を議長とする SW 組織委員会が 2016 年 2 月 29 日開催に決定をした開催期間について、これまで 10 月最終週から 11 月第 1 週をコア期間として開催してきたのを 2017 年度から Hokkaido サマー・インスティテュートの開催期間に合わせて開催することが、SW のパンフレットなどを通じて周知された。

総長あいさつ



北海道大学 総長 山口佳三

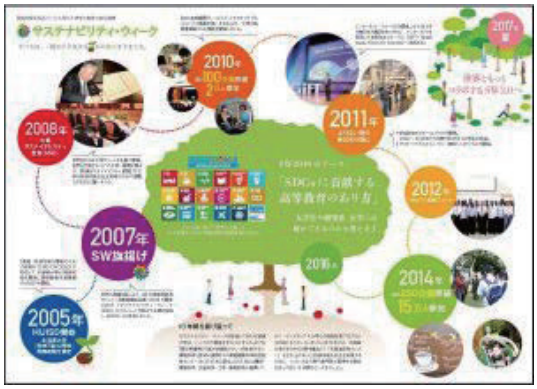
北海道大学サステナビリティ・ウィーク2016にご参集くださりありがとうございます。

今年は、サステナビリティ・ウィーク誕生10周年です。

振り返れば、国連「持続可能な開発のための教育の10年」が始まった2005年に、北海道大学「持続可能な開発」国際戦略を策定したことが、挑戦の始まりでした。世界の持続性に貢献する教育と研究を、全学的に促進させようという挑戦です。

この戦略下で2007年には、一連の学術イベント「サステナビリティ・ウィーク」を開始しました。きっかけは、世界の重要課題を扱う先進国主要会議「G8サミット」が2008年に北海道・洞爺湖で開催されることが決まったことでした。サミット開催に向けて、本学の研究者や学生が取り組んでいる持続性の課題について、より多くの人と議論する機会を設けるべく「サステナビリティ・ウィーク」が2007年に誕生したのです。

最初のウィークは、自然科学系の数個の研究集会のみであったのが、次第に人文社会系や医学系のテーマの企画や学生が主催する企画が加わり、今では多様な企画群に世界から参加者が集まるようになりました。



「小さな一粒の種が、色とりどりの森に」成長し、今では、森を構成するそれぞれの企画が、持続可能な社会づくりに向けた議論の花を咲かせ、次世代へ叡智をつなぐ実や種を育むようになった、と言えるでしょう。

今年はまた、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」が発効した年でもあります。そこで、サステナビリティ・ウィーク10周年の記念すべき年のテーマに、「SDGsに貢献する高等教育のあり方」を選びました。大学生や研究者、そして大学という組織に何ができるのかを多角的に議論します。

2030年までにSDGsの達成を目指す市民ひとり一人そして多くの大学関係者にとって、今後の歩みを考える有意義な機会となるよう心から祈っております。

北海道大学 総長 山口佳三

「だれか」ではなく、「私たち」が
「いつか」ではなく、「今」から
世界の課題解決に貢献するために

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク2016
Hokkaido University Sustainability Weeks 2016

GiFT 2016
国際協力
JICA
生きる知識を
リスク社会を
サイエンス
先住民
文化遺産と考古学
環境と
健康
ヘルス
LGBT
と市民運動
SDGsと
若者と
高等教育
青年海外協力隊
学生英語弁論大会
触媒研究
高等教育
バルトの
北欧・
感性工学
サステイナブル
キャンパス
フィンランド
応用倫理
国連諸機関
情報の調べ方
インフラ
維持管理
教育
北大
サステイナビリティ
コンフリクトを
超える知
「サイエンス」
「音楽」・「冒険」・
グリーンランドの
北大
映画館
篤農家
ESD
国連寄託
図書館ツアー
博物館ツアー
お口の健康



フェスタ
国立大学2016

持続可能な社会づくりに向けた研究と教育の強化週間

サステナビリティ・ウィーク

すべては、一粒の小さなタネからはじまりました。

2005年 HUISD開始

北海道大学「持続可能な開発」国際戦略を策定

「国連・持続可能な開発のための教育の10年」(UN DESD)に呼応して、北海道大学は「持続可能な開発」国際戦略本部事業(HUISD)を開始。

2007年 SW旗揚げ



世界の課題を話し合う、G8北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)2008の開催に向け、「サステナビリティ・ウィーク(SW)」をスタート。1年目は6企画を実施し、約800人が参加しました。

2008年 札幌サステイナビリティ宣言(SSD)



世界初のG8大学サミットを札幌で開催。世界を代表する27の大学・機関が集まり、『札幌サステイナビリティ宣言』で「大学は持続可能な社会実現のための原動力になる」と誓いました。

SSD実現機関の一つとして、「サステイナブルキャンパス推進本部」を立ち上げ、大学の施設運営面からも貢献を開始しました。

2010年 累計100企画突破 2万人参加

2011年 より広い層の参加を可能に



インターネット・フォーラムの開催。2011年3月の東日本大震災をきっかけに、インターネットを利用した世界的なフォーラム「GiFT−Global Issues Forum for Tomorrow−」を始める。



- 学生研究ポスターコンテストの開催。2009～2013年の5年間で約450人の学生が参加。
- サステイナブルキャンパス・国際シンポジウムの開催。

2012年 海外での開催スタート



2014年 累計250企画突破 15万人参加







2016年

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



2030年に向けて世界が合意した17の目標からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」

SW2016のテーマ：

「SDGsに貢献する高等教育のあり方」

大学生や研究者、大学には何ができるのかを考えます。



10年間を振り返って

サステナビリティ・ウィークを持続してきた北海道大学は、いくつかの果実を手に入れました。中でも「異分野連携」の実が特徴的です。一例を挙げると、環境科学と医学が連携する「環境健康科学研究教育センター」を2010年に設立。2012年には農学・環境科学・水産科学・工学・情報科学が連携して、タイ・インドネシア6大学との特別教育プログラム(PARE)をスタートしました。2015年には、北海道大学のあらゆる分野を集約して「北極域研究センター」を立ち上げました。持続可能な社会を実現するために、いろいろな分野の専門家が連携する機会を作ってきた10年間だといえるでしょう。

2017年夏



小さな一粒が色とりどりの森に

北海道大学
サステナビリティ
ウィーク2016

さまざまな角度から、未来に向けて議論します。

それぞれのテーマを木々の色で表しています。

今年のテーマ：
「持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する高等教育のあり方」
国連SDGsの達成に貢献するには、大学や大学生には何ができるでしょうか？
様々な角度から議論します。

すこやかに人間らしく生きる
ひとり一人が身体的、精神的、社会的に良好な状態（Well-being）で
質の高い生活（Quality of Life）を送ることのできるコミュニティをつくります。

未来への学び
叡智（えいち）や課題を分かち合い共感することを通じて、
新たな未来を切り開く心、ちから、仲間を育みます。

調和を見いだす
自然の恩恵を意識しつつ、
環境を損なわずに暮らす道を模索します。

※行事は変更になる場合があります。最新の情報はウェブサイトでご確認ください。http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/

1

10月17日（月）13：30〜16：00《会場》学術交流会館

国際シンポジウム
環境と健康領域における持続可能な開発目標（SDGs）

SWウェブサイトにて 9/1〜10/13まで受付

SDGs達成に向けて、安全な水環境、有害物質の排除、母児の健康などをテーマに、健康な社会を創造するための研究や教育について考えます。

《主催》環境健康科学研究教育センター
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/cehs/

胎児に影響？危険な環境要因とは？

17

11月3日（木）13：00〜16：00《会場》保健科学研究院E棟

保健科学研究院公開講座
ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ

SWウェブサイトにて 9/1〜10/14まで受付

ヘルスサイエンスをテーマに、画像検査で見る老化や、高齢者の運動習慣、伝統社会で暮らす人々の健康など、研究内容を分かりやすく紹介します。

《主催》大学院保健科学研究院
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/health/

科学で高齢社会の可能性を広げる！

3

10月27日（木）18：15〜19：30《会場》国際本部

北大×JICA連携企画
青年海外協力隊トークイベント

途上国の教育に携わるボランティアが、その目で見てきた2年間を語ります。経験をどう日本の教育・社会に還元できるのか、開発教育の視点から考えます。

《主催》独立行政法人 国際協力機構（JICA）北海道国際センター（札幌）
http://www.jica.go.jp/sapporo/enterprise/volunteer/index.html

ネパールで活動した現役大学院生がお話します！

4

10月28日(金)13:30〜17:00《会場》農学研究院 食資源研究棟

北大・地球研合同地球環境セミナー
「篤農家」から地域社会と環境の未来を学ぶ

地域に根ざして農を営む「篤農家」。その行動力や人生哲学など、農業以外でも大きなヒントをくれる人材と、地域で育まれた知恵・未来社会のあり方を探ります。

《主催》工学研究院、総合地球環境学研究所
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/farm/

地球の課題を解決するカギは、人材！

2

10月20日（木）18：30〜20：30《会場》学術交流会館

講演会 **超高齢社会を迎えて ー感性工学の果たす役割ー**

世界初、超高齢社会を迎えた日本。高齢者に配慮したモノづくりの重要性が高まる。家電製品やサイン、ユニバーサルデザインなど、参加者と理解を深めます。

《主催》工学研究院人間機械システムデザイン部門インテリジェントデザイン研究室
http://labs.eng.hokudai.ac.jp/labo/intelligent_design/

今、注目の感性工学とは？

15

10月31日（月）13：30〜18：00《会場》学術交流会館

北大ー理研ー産総研
「触媒研究」合同シンポジウム

SWウェブサイトにて 8月上旬〜定員まで受付

日本の「触媒研究」を牽引する北大ー理研ー産総研の各組織が連携して、キャタリストインフォマティクスの構築とその利用による触媒開発を目指します。

《主催》触媒科学研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人理化学研究所
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/catalyst/

触媒科学の最先端研究者、ここに集まる。

シンポジウム
関連企画

5
10月28日（金）14：45～18：00 《会場》附属図書館（本館）

附属図書館（国連寄託図書館）企画 2Days イベント（1 日目）
法・図 共同ワークショップ
「世界のルールの作り方・使い方」

高等法政教育研究センター
ウェブサイトにて10/27まで受付

国連広報センターの千葉潔氏が、国連の人権に対する
動きや取組みを紹介し、各機関の文書や調べ方、
ウェブサイト活用術などを解説します。

《主催》附属図書館（国連寄託図書館）、法学研究科
http://www.juris.hokudai.ac.jp/ad/

「国連と人権」を読み解く実践的な内容です。

シンポジウム
関連企画

6
10月28日（金）12：50～18：00
29日（土）9：45～18：00／30日（日）9：45～12：15
《会場》人文・社会科学総合教育研究棟

第10回応用倫理国際会議
－応用倫理学の過去・現在・未来－

国際的水準での研究・学術交流の推進を目的に、
今年で開催 10 回目の研究者向け国際会議。
若手研究者の養成と共に、分野全般の研究能力向上を目指す。

《主催》応用倫理研究教育センター
http://ethics.let.hokudai.ac.jp/

応用倫理学領域、国内唯一の国際会議です。

16
11月1日（火）～2日（水）9：30～17：00 《会場》学術交流会館

サステイナブルキャンパス
国際シンポジウム2016

SWウェブサイトにて
10/1～10/31まで受付

大学の役割には、知財・人財の社会への還流、社会実験の場としての
キャンパス活用などがあります。持続可能な社会と大学の
役割について、キャンパスマスタープランの視点から理解を深めます。

《主催》サステイナブルキャンパス推進本部
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/sc/

持続可能な大学のキャンパスマスタープランとは?

22
11月12日（土）10：00～17：00 《会場》高等教育推進機構

JICA PARTNER
国際協力人材セミナー in 北海道

JICAウェブサイトにて
10/1～11/2まで受付

「国際協力の仕事をしたい！」社会人・学生向けに、
1 日で国際協力業界の仕事やキャリアの概要、
求められる人材の資質等がわかるセミナーを開催します。

《主催》独立行政法人 国際協力機構（JICA）
http://partner.jica.go.jp

個別キャリア相談有!

19
11月4日（金）13：30～17：15 《会場》学術交流会館

シンポジウム
高齢化するインフラにどう対応するか

受付方法は、9月中旬以降
SWウェブサイトで案内予定

橋梁、舗装、トンネルなど、老朽化するインフラを
今後どのようにマネジメントしていくか。
学内外の研究者、行政関係者とともに考えます。

《主催》公共政策大学院
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/infra/

持続可能な社会基盤のあり方は?

18
11月3日（木）～4日（金）9：00～17：00 《会場》学術交流会館

国際シンポジウム
東アジアにおける大学と先住民族との協業のあり方を探る

SWウェブサイトにて
9/30～11/2まで受付

北海道と台湾を対比し、アジアの先住民族と考古学の
協業のあり方を考える。地域連携、先住民族の権利、
知的財産権など、広い視野で意見を交換します。

《主催》アイヌ・先住民研究センター
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/ainu/

北海道と台湾の先住民族。地域連携の可能性とは?

24
11月20日(日)（※詳細はウェブサイトにて）《会場》学術交流会館

第31回ポテト杯争奪
全日本学生英語弁論大会

学生企画

SWウェブサイトにて
10/20～11/19まで受付

北海道唯一の英語弁論全国大会「ポテト杯」では、
毎年様々な社会問題をテーマに、全国で選ばれた学生 10 名が
8 分間の英語スピーチで日本一を競います。

《主催》英語研究会
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/potato/

英語やスピーチのコツを学ぶチャンス!

25
11月26日（土）～27日（日）（※詳細はウェブサイトにて）
《会場》クラーク会館

CLARK THEATER 2016

学生企画

今年で 11 年目を迎える期間限定の北大映画館「クラークシアター」。
普段観ない映画や人々との出会いが
持続可能な社会へ繋がると信じ、今年も開設します。

《主催》北大映画館プロジェクト
http://www.clarktheater.jp

映画の理解が深まるトークショーも必見!

20
11月6日（日）9：30～13：00 《会場》歯学部講堂

お口の健康と歯科医療 その2
―患者サイドに立った知識の浸透―

SWウェブサイトにて
11/4まで受付

生活の質を左右する要素の一つである食事。
食事を楽しくするのに必要なお口の健康と、問題への
対処法について話上手な講師がわかりやすく紹介します。

《主催》歯学研究科
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/dent/

おいしい食事は、健康なお口から。

23
11月16日(水)（※詳細はウェブサイトにて）《会場》フィンランド

北海道大学―フィンランド
ジョイントシンポジウム

これまで協働を続けてきたフィンランドの大学と、
北大の教育研究関係者が最新の研究成果を共有。
相互交流を図り、今後の更なる協働の可能性を探る。

《主催》オウル大学（フィンランド）
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/finland/

今年で 6 回目の開催。海外開催企画!

27
12月18日(日)13:30～16:30 《会場》学術交流会館

一般公開フォーラム
シティズンシップと市民運動
－LGBTをとりまく日本的事情－

性的少数者が社会的認知や権利を得るには、行政や性多数者の
理解と協力が必要です。その方策の一つが市民運動。
私たちの世界の可能性と限界を議論します。

《主催》応用倫理研究教育センター
http://ethics.let.hokudai.ac.jp/

少数者の問題は多数者の問題でもあるのです。

26
11月27日（日）20：00～22：00 《会場》インターネット上

GiFT2016
～Global Issues Forum for Tomorrow～

インターネットを通じて世界の大学生・高校生
とつながり、英語で約 2 時間のディスカッション
をする学生向けフォーラムです。

《主催》北海道大学
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/index.html

参加学生大募集!

サステナビリティ・ウィーク10周年記念
国際シンポジウム
10月29日（土）、30日（日）／会場：学術交流会館 他

10th ANNIVERSARY

7 基調講演
「SDGs へ貢献する高等教育のあり方」
「リスク社会における不確実性を生きるための知識とは」
「北大サステイナビリティ教育に関する将来構想」
《主催》北海道大学

8 市民セミナー＆図書館ツアー
「聞いて見て知る！国連の活動と北大図書館」
《主催》附属図書館（国連寄託図書館）

9 総合博物館ツアー
持続可能な開発を「クール」に考えよう！
《主催》北海道大学北極域研究センター

10 フォーラム **「5 大学による ESD 事例報告」**
対談 **「SDGs へ貢献する高等教育のあり方について」**
《共催》HESD フォーラム

11 講演会 **「北欧とバルトの国々に学ぶ**
サステナブルな高等教育の在り方」
《主催》北海道大学ヘルシンキオフィス

12 ワークショップ **「学生目線で考えよう！よりよい**
世界の未来を担う高等教育どうあるべき？」
《共催》環境省北海道環境パートナーシップオフィス

13 講演会 **「コンフリクトを超える知を生み出す学び」**
《主催》北海道大学教育学研究院

14 講演会 **「文化遺産・文化財の保護を通した**
持続可能な社会の構築に向けた課題と展望」
《主催》北海道大学応用倫理研究教育センター

詳細、参加申し込みは ▶▶▶▶▶▶
ウェブサイトにて
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/

高等教育の将来を議論する、分野横断的コラボレーション!

21
11月7日（月）15：00～18：00 《会場》総合博物館

公開イベント **グリーンランドをめぐる**
「音楽」・「冒険」・「サイエンス」

自然・社会環境・文化をテーマに、ミニセミナー、音楽コンサート、
冒険スキーヤートークショーなどを開催。
グリーンランドについて楽しく学んでみませんか?

《主催》低温科学研究所、北極域研究センター、
ArCS北極域研究推進プロジェクト、THE MUSIC PLANET
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/green/

グリーンランドの人気バンド、ナヌークが北大に!

会場案内図　札幌キャンパスマップ



イベントスケジュール

※7〜14の［　　］の部分はSW10周年記念 国際シンポジウム企画です。

	日　程	行事名	主　催	共　催	主な対象			
					専門家	市　民	大学生院生	高校生
1	10月17日（月）	国際シンポジウム 環境と健康領域における持続可能な開発目標（SDGs）	環境健康科学研究教育センター	保健科学研究院、医学研究科、地球環境科学研究院、文学研究科	●	●	●	
2	10月20日（木）	講演会 超高齢社会を迎えて ―感性工学の果たす役割―	工学研究院人間機械システムデザイン部門　インテリジェントデザイン研究室	日本感性工学会北海道支部、札幌市立大学デザイン学部		●	●	
3	10月27日（木）	北大×JICA 連携企画　青年海外協力隊トークイベント ～持続可能な社会をつくる日本のボランティア～	独立行政法人国際協力機構（JICA）北海道国際センター（札幌）	国際本部		●	●	●
4	10月28日（金）	北大・地球研合同地球環境セミナー 「篤農家」から地域社会と環境の未来を学ぶ	工学研究院、 総合地球環境学研究所	農学研究院、国際連携研究教育局食水土資源グローバルステーション	●	●	●	
5	10月28日（金）	法・図 共同ワークショップ 「世界のルールの作り方・使い方」	附属図書館（国連寄託図書館）、法学研究科	国連広報センター	●	●	●	●
6	10月28日（金）～30日（日）	第10回応用倫理国際会議 ―応用倫理学の過去・現在・未来―	応用倫理研究教育センター		●		●	
7	10月29日（土）	基調講演「SDGsへ貢献する高等教育のあり方」 「リスク社会における不確実性を生きるための知識とは」 「北大サステイナビリティ教育に関する将来構想」	北海道大学		●	●	●	
8	10月29日（土）	市民セミナー＆図書館ツアー 「聞いて見て知る！国連の活動と北大図書館」	附属図書館（国連寄託図書館）	国連広報センター	●	●	●	●
9	10月29日（土）、30日（日）	総合博物館ツアー 持続可能な開発を「クール」に考えよう！	北極域研究センター			●	●	●
10	10月30日（日）	フォーラム「5大学によるESD事例報告」 対談「SDGsへ貢献する高等教育のあり方について」	北海道大学	HESDフォーラム	●	●	●	
11	10月30日（日）	講演会 「北欧とバルトの国々に学ぶサステナブルな高等教育の在り方」	ヘルシンキオフィス		●	●	●	●
12	10月30日（日）	ランチセッション「大学生の挑戦！世界の目標を自分とつなげる」 ワークショップ「よりよい世界の未来を担う高等教育どうあるべき？」	北海道大学	環境省北海道環境パートナーシップオフィス		●	●	●
13	10月30日（日）	講演会 「コンフリクトを超える知を生み出す学び」	教育学研究院		●	●	●	
14	10月30日（日）	講演会 「文化遺産・文化財の保護を通した持続可能な社会の構築に向けた課題と展望」	応用倫理研究教育センター		●		●	
15	10月31日（月）	北大ー理研ー産総研「触媒研究」合同シンポジウム	触媒科学研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人理化学研究所		●		●	
16	11月1日（火）、2日（水）	サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2016 ―持続可能な社会とキャンパスマスタープランの役割―	サステイナブルキャンパス推進本部		●	●	●	
17	11月3日（祝・木）	保健科学研究院公開講座 ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ	大学院保健科学研究院			●		
18	11月3日（祝・木）、4日（金）	国際シンポジウム 東アジアにおける大学と先住民族との協業のあり方を探る	アイヌ・先住民研究センター	新学術領域研究 稲作と中国文明	●	●	●	●
19	11月4日（金）	シンポジウム 高齢化するインフラにどう対応するか	公共政策大学院		●	●	●	●
20	11月6日（日）	お口の健康と歯科医療 その2 ―患者サイドに立った知識の浸透―	歯学研究科		●	●	●	●
21	11月7日（月）	グリーンランドをめぐる「音楽」・「冒険」・「サイエンス」	低温科学研究所、北極域研究センター、ArCS北極域研究推進プロジェクト、THE MUSIC PLANET		●	●	●	●
22	11月12日（土）	JICA PARTNER 国際協力人材セミナー in 北海道	独立行政法人 国際協力機構（JICA）		●	●	●	●
23	11月16日（水）	北海道大学ーフィンランド　ジョイントシンポジウム	オウル大学	ラップランド大学、 ヘルシンキ大学、北海道大学	●	●	●	
24	11月20日（日）	第31回ポテト杯争奪　全日本学生英語弁論大会　学生企画	英語研究会			●	●	●
25	11月26日（土）、27日（日）	CLARK THEATER 2016　学生企画	北大映画館プロジェクト		●	●	●	●
26	11月27日（日）	GiFT2016 ～ Global Issues Forum for Tomorrow ～	北海道大学				●	●
27	12月18日（日）	一般公開フォーラム シティズンシップと市民運動 ―LGBTをとりまく日本的事情―	応用倫理研究教育センター	法学研究科附属高等法政教育研究センター	●	●	●	●

サステナビリティ・ウィーク事務局

北海道大学国際本部（2016年10月より国際連携機構に改組予定）
〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目
TEL: 011-706-8031　FAX: 011-706-8036　E-mail: sw1@oia.hokudai.ac.jp

詳しい情報はウェブサイトで公開しています。
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/

古紙配合率100%再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOYINK

2016年9月発行

サステナビリティ・ウィーク2016を振り返って



サステナビリティ・ウィーク2016実行委員長
国際担当理事・副学長 上田 一郎

サステナビリティ・ウィーク事業は今年10周年を迎え、34企画が集まりました。今年は、国連「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、大学が、研究者が、学生が、市民社会が、どのように貢献できるのかについて、提案そして議論を行う年となりました。特徴的な企画の一つが、10月29日・30日に開催された10周年記念 国際シンポジウムでした。「SDGsに貢献する高等教育のあり方」という共通テーマの下で、図書館、北極域研究センター、本学ヘルシンキオフィス、教育学研究院、応用倫理研究教育センター、国際連携機構が分科会を提供し、多角的な議論を可能にしてくれました。強調されたのは、学生が社会変革に参画しつつ学んでいけるような学修環境の重要性でした。

図らずも本学の学生が企画した2つのコンテストは、まさしく学生が社会変革に寄与しようとする意欲的な取り組みでした。一つは、全日本学生英語弁論大会「ポテト杯」、もう一つは学生による国際社会問題ビジネスコンペティション「HULT PRIZE」です。どちらも持続可能な社会を実現するための解決法を学生が自ら考え出し、英語でプレゼンテーションし、社会人を含む審査員を納得させ、将来の希望の大きさを競う企画でした。これらの企画は、授業や研究そして生活の中で得た知識や技術を総動員して、学生がカリキュラムの外でさらに学び成長する機会を提供するものです。こういった学生の自主的な学びの機会を支えるのも、サステナビリティ・ウィークが果たすべき重要な役割だとあらためて思いました。

10年間を振り返りますと、「持続可能な社会の実現に向けた教育研究の推進週間」と位置づけられる当該事業に賛同し集った企画は合計339あり、参加者は17万7,000人を超えました。人間社会、自然環境、経済の最適なバランスを求めて、啓発・啓蒙、成果報告、議論、提案などを行った本学の教職員や学生のグループが339あったということです。主催者や企画タイトルを見ると、この人類の課題に対し多角的なアプローチが必要であることを痛感すると共に、北海道大学がこれらを提供し得る豊かな人的資源と教育研究成果を保有している事実に誇りを思います。

10年間の歴史と経験そして恵まれた人的資源を活かして、近未来戦略150のビジョンでもある「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」向かって、サステナビリティ・ウィークを続けて行きますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。